

## はじめに

### ●減災に向けた取組の推進

鎌倉は、過去に大きな地震とそれに伴う大津波に数度襲われたといわれます。平成25年(2013)は元禄16年(1703)11月22日の「元禄地震」から310年目、大正12年(1923)9月1日の「大正関東地震」から90年目にあたり、本年は安政元年(1854)11月4日の「安政東海地震」及び同11月5日の「安政南海地震」から160年の節目を迎えます(翌10月2日に発生したのが「安政江戸地震」)。これらの地震は古記録からすると、それぞれの前後で連続して地震が発生したことや、鎌倉及びその周辺地域で甚大な被害があったことが窺えます。

また、平成23年(2011)3月11日に発生した「東北地方太平洋沖地震」は、東北地方から関東地方にかけて、これまでの想定を大きく上回る巨大な地震と津波が襲来して激甚被害をもたらしました。これが「東日本大震災」です。道路や交通・輸送網のみならず、ライフライン、情報通信網などが各地で寸断され、災害対策初期の救援・救護活動の混乱等をはじめ、被災地域の生活や産業に大きな爪痕を残しました。そのうえ、現在の社会や生活を支えるネットワーク系施設への依存、少子高齢化の進行、近隣における相互扶助意識の希薄化などが浮き彫りになりました。今後は、頼らず、助け合い、支えあう自助、共助意識の浸透を図り、きずなを大切にされた地域のつながりを築いていくことが、「減災」に向けた取組を推進するうえで重要な要素となるでしょう。

このたび市は、災害の被害をできる限り抑えるための一助としまして、本書を編集いたしました。家庭や地域の「減災」対策にご活用いただければ幸いです。

### ●減災・災害対応に男女共同参画、避難行動要支援者対策の視点をもって

平成7年(1995)1月の「阪神淡路大震災」以来、災害被災時において、女性はもとより障害者や高齢者及びその家族、妊産婦、子どもなどへのきめ細やかな対応の必要性が指摘されております。そこで市は、平成25年2月に改定を行った『鎌倉市地域防災計画(地震災害対策編)』の趣旨を踏まえ、避難生活が長期化した場合の多様なニーズに対する配慮や心のケアについて、次の視点に基づく取組を進めてまいります。

- ・被災地や避難所、仮設住宅などでの物資の配給のありかたについて
- ・専用スペース、殊に女性用や障害者用スペースの設置について
- ・防犯対策について
- ・日中及び夜間の託児・託老支援について
- ・障害者支援など

平成26年2月 鎌倉市防災安全部総合防災課

## 地震に備えて

### ●わが家の耐震診断をしてみましょう

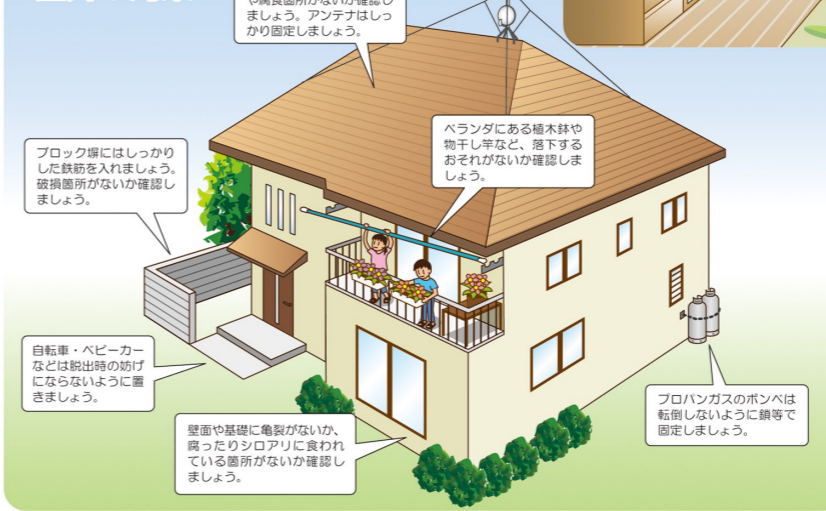
兵庫県南部地震では昭和56年以前に建てられた比較的古い木造住宅が数多く倒壊し、多くの方が犠牲となりました。地震に対して安全かどうかを調べるために、耐震診断をしてみましょう。

耐震診断には、一般の方が簡単にできる耐震診断法(誰でもできるわが家の耐震診断)と、専門家が行う一般診断法や精密診断法があります。

### 窓耐震相談

市庁舎において毎月2回程度、専門家による耐震相談を行っています(予約制、先着順、無料)。詳細は建築指導課0467-61-3586までお問い合わせください。

### 屋外の対策



### 屋内の対策

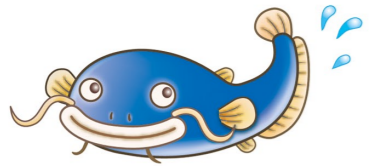


### ●東海地震における鎌倉市の被害想定

- 死者数: 0人
  - 負傷者数: 130人
  - 建物全壊: 160棟
  - 建物半壊: 2,160棟
  - 焼失棟数: 30棟
  - 避難者数: 5,160人
  - 帰宅困難者数: 4,510人
- ※地震が発生する時間や風速によって異なります。
- (ライフライン被害)
- 電力(停電件数): 800件
  - 通信(不通回線数): 510回線
  - ガス(供給停止件数): 0件
  - 上水道(断水世帯数): 210世帯
  - 下水道(機能支障世帯数): 230世帯

出典: 神奈川県地震被害想定調査報告書(平成21年3月)

## 地震の知識



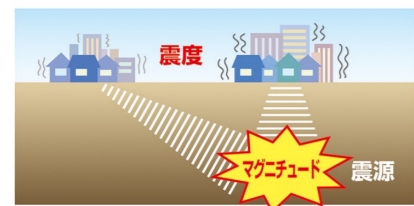
世界有数の地震国である日本は、昔から地震の被害を受けてきました。近年では、兵庫県南部地震、新潟県中越地震、福岡県西方沖地震、新潟県中越沖地震、岩手・宮城内陸地震などの大きな地震があり、そして平成23年3月11日、東北地方太平洋沖地震が発生しました。東北地方太平洋沖地震では、宮城県で震度7の強烈な揺れを観測。東北から関東の広い範囲でも強い揺れに見舞われました。

## 地震に関する用語

地震計や震度などについては、独立行政法人 防災科学技術研究所 総務グループ(029-851-1611)に問い合わせ下さい。

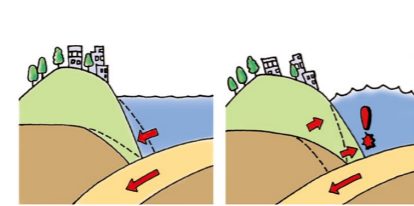
### ●マグニチュードと震度

地震の規模を示すマグニチュードと地表での揺れの程度を示す震度は別物。マグニチュードが大きくても震源が遠い場合や深い場合は震度は小さく、マグニチュードが小さくても震源が近い場合や浅い場合は震度は大きくなるという。



### ●海溝型地震

海洋側のプレート(地殻)は、毎年数cmのスピードで日本列島の乗った大陸側のプレートの下に潜り込んでいる。このとき一緒に引きずり込まれた大陸側のプレートが、急激に元に戻ろうとして発生する地震を海溝型地震という。



### ●活断層

約200万年の間に活動し、今後も活動しそうな断層。地震発生源のひとつ。マグニチュードは小さくても震源が浅いため、都市部などで発生すれば大きな被害を受けやすい。



## 震度の目安(地震の揺れと被害想定)

4		かなりの恐怖感があり、眠っている人のほとんどが目覚めます。すわりの悪い置物が倒れることがある。	弱		立っていることが困難になる。かなりの建物で壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。壁には亀裂が生じる。
5		多くの人が身の安全を図ろうとする。家具が移動し、食器や本が落ちる。窓ガラスが割れて落ちることがある。	6		はわないと動けない。ブロック塀が崩れ、耐震性の低い建造物は倒壊するものがある。地割れなどが発生することがある。
強		非常に恐怖を感じ、多くの人が行動に支障を感じる。タンスなど重い家具や、屋外では自動販売機などが倒れる。	7		自分の意志で行動ができない。耐震性の高い建物でも傾いたり、大きく倒壊するものがある。地割れ、地すべりが発生する。

※この階級による震度(気象庁震度階級)の発表は、平成8年10月より実施